

三月の風

・登場人物

父親

息子（次男）

母親

弟

（長男、クラスメート）

受験に失敗した次男と父親がいさかいを起こす。父親は次男を非難するが、内心では思っている部分もある。

・語句

きざし……物事が起こることを予想させるようなしるし。

むすばれる……（自然に）結ばれて解けない状態になる。

案のじよう……予想したとおり。

藁をも掴む……溺れる者は藁をも掴むの略。危急に際しては、頼りにならないものにもすがろうとするの意。

見えを張る……自分をよく見せようとして外見を飾る。

余儀ない……ほかにどうしようもない。

親がかり……子がまだ自立できないで、親に養われていること。また、その人。

一事が万事……一つの小さなことに見られる傾向が、他のすべてのことに現れるということ。

ぞんざい……取扱い等が丁寧でなく、なげやりで乱暴なこと。

太刀打ち……実力で張り合うこと。まともに勝負すること。

おいそれと……依頼・必要に対して、すぐさまには（応じられない）。

関の山……よく、または多く見積もってもそこまでだということ。

してやられる……相手の術中にはまるのこと。

小手だめし……物事を本格的に始める前にちよつと試してみること。

くすぶる……不満を持ったまま、引きこもって過ごす。

てんでに……それぞれの人が自分の思う通りにするさまのこと。

御多分に洩れず……例外ではなく。他と同じように。

厄介払い……厄介者や厄介なことを追い払うこと。

図にのる……いい気になって勢いづく。調子に乗る。つけあがる。

腹の虫がおさまらない……はどうしようもなく腹が立つ。

こわもて……こわい顔つきで他人をおびやかすこと。「強面」。相手に対して強い態度に出て優遇されること。「恐持て」。

出る幕ではない……出て行って口をはさんだりよけいなことをしたりする場面ではない。

紋切り型……かたどおりで新味のないこと。

居直る……急に態度を変えて威圧的になる。

罵倒……ひどくのしること。

平静……おだやかで（落ち着いていて）静かなこと。

手はなし……遠慮や気兼ねをしないで、おおっぴらに感情を表すこと。

・視点に関する設問については割愛します。

・脚問

- ① 見えを張って東京の一流だの有名だのと名のつく大学をいくつ受けたところで、どこも受かるわけではないだろうという客観的な結論。
- ② 頭の回転が早く、人間関係を築くのが上手で、社会情勢に興味を持つなど、好奇心旺盛である点。
- ③ 母親の制止も聞かずに、二階の部屋は自分のものだとして強く主張し、そこにあるものを自己中心的に処分しようとする態度。
- ④ 反抗する息子に対して突き放した態度をとることは、父親の役目として当然であると考えているから。
- ⑤ ずっと前から定められた運命、避けられぬ破局であったように見え、そこに論理的な理由など存在しないから。

「よむナビ」に関する解説は割愛します。

不明点については、授業が開始された際に質問してください。